既存の標本を加え，牧野植物園を拠点に整理と編集作業が行われた．これだけの広さの県で，足かけ10年で刊行にこぎつけたのは，たいへんな努力だったと思う．635頁にわたる植物目録が主体で，ざっと数えて3,200種類が記録されている．それぞれの種類については簡単な特徴記述，関係文献，標本の引用のほか，市町村単位の分布図がすべてに添えられているのがユニークである．注目すべきは，シロツメクサやドクダミのようなごくありふれた種類でも，標本を丹念に採集し，引用してあることである．植物誌というと，とかく「貴重な」種類に重点が置かれ勝ちだが，本書では平等に扱われている点，別なユニークさを感じる．それにしても「こんなくだらない種類の標本ばかりたくさん集めて...」と，文句のタネになったのではなかろうか．その評価は将来にまつほかはない．

巻末にすべての種類の開花結実期と垂直分布を示す図，および市町村別の分布表がある．この分布表は今後の地域研究に，チェックリストとして役立つだろう．付録として，高知県植物誌標本画像検索システムと題するDVDがつけられており，簡単な操作で本書に関わるおしば標本を閲覧することができる．

購入希望者は牧野植物園（781-8125 高知市五台山 Tel. 088-882-2601）へ連絡のこと．送料は地域により異なり，東京ならば600円とのこと．（金井弘夫）

□安田 守・沢田佳久：**オトシブミハンドブック**．80 pp. 2009. ￥1,200＋税．文一総合出版．ISBN: 978-4-8299-1021-4 C0645.

「本書は，野外でオトシブミやオトシブミが葉を巻いてつくる揺籃（ようらん）に出会うための案内書，出会うための手引書である」．本書の巻頭にある文章を引用したものであるが，内容はこの文章に凝縮されているといえるだろう．写真担当は「生きもの写真家」の安田氏，解説は兵庫県立人と自然の博物館スタッフの沢田氏．

雑木林の林床に「落とし文」を見つけることは誰にも記憶があるだろう．心が踊り立つ新緑の頃の光景である．機会に恵まれれば，オトシブミ達が実際に「落とし文」を作っている最中に出会うこともあるだろう．

オトシブミとは葉を巻く性質をもったゾウムシの総称で，分類上はゾウムシ上科オトシブミ科オトシブミ亜科の全てとチョッキリ亜科の一部を指す（本書より）．内容は，序に当たる部分から，オトシブミ亜科一覧，チョッキリ亜科一覧，揺籃検索表が続き，本体は見開き1ページないし2ページにオトシブミ類各種の実寸写真と拡大写真，食草・食樹，揺籃の形態，揺籃づくりの様子が描かれている．とりわけ，オトシブミの拡大写真は見応えがある．落とし文は葉を円筒形に巻いたものだけではないことを知ってはいたが，実にいろいろな揺籃があることに驚かされる．また，揺籃の形態だけではなく，制作方法もさまざまである．本書は理屈抜きで楽しめるオトシブミのガイドブックと言えるだろう．（門田裕一）